令和5年度　学校評価総合シート　保護者①

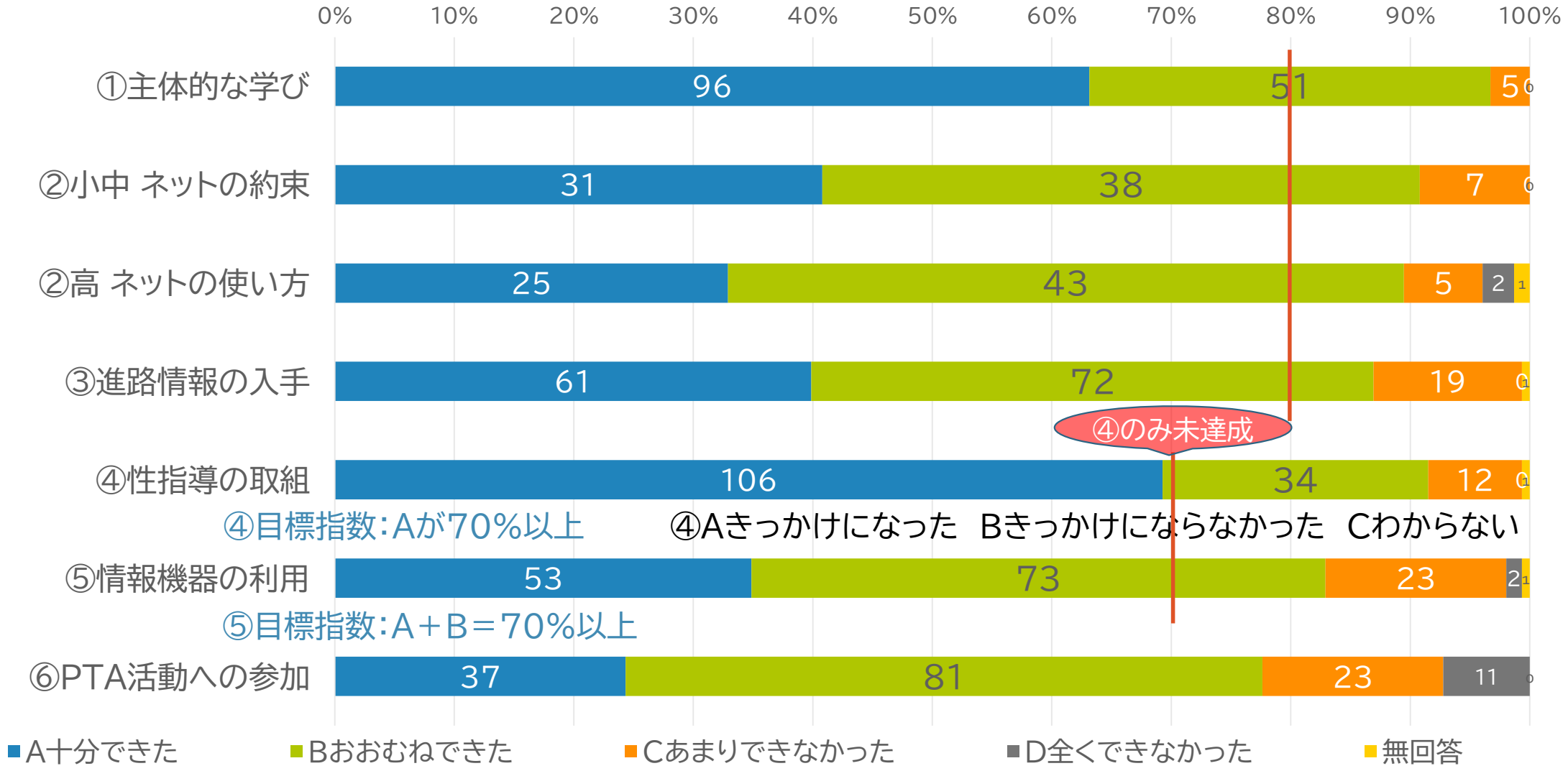
教育課程・学習支援	学習指導要領の指導内容を確認し、その内容に基づいた指導計画を作成し、児童生徒が自分から学ぼうとしている姿勢を意識した評価をする。	保護者	日々の様子や連絡帳、担任との懇談会での話合いを通して、子どもが主体的に学ぼうとする姿を知ることができたか。	A	96	63%	達成	教員の保護者との連携や、連絡帳を通したきめ細かなやりとり、懇談会などでの具体的な話合いもあって、子どもの主体的に学ぼうとする姿がよく伝わった。しかし、主体性が感じられない保護者も少数ながら存在するので、引き続き主体性の引き出せる支援が必要である。	保護者とのやりとりを通して、子どもたちが主体性を発揮しやすい事柄や、家庭で積極的に取り組んでいることなどを聞き取り、保護者と共通理解を持って子どもが主体的に学ぼうとする姿について見取っていきたい。
				B	51	34%			
				C	5	3%			
				D	0	0%			
			【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	無	0	0%			
人権教育・生徒支援	学校から情報を発信したり、児童生徒の支援策を保護者と考えたりするなど、家庭と連携して支援・指導を行う。	保護者（小中学部）	人とのかかわり方やインターネット利用時の約束について、お便りで情報を得たり、担任と共に家庭での支援を考えたりすることができたか。	A	31	41%	達成	インターネットに関する情報のチラシを家庭に配布したり、学校での取組を学部便りで紹介したりした。多くの教員が人とのかかわり方やインターネットの使い方について積極的に支援・指導を行い、懇談等で話し合いをした成果と考える。	今後も引き続き、有効な情報や教材を教員へ提供し活用してもらったり懇談前に呼びかけを行ったりすることで、教員の意識を高めるとともに、有効な情報や取組を定期的に学部便りやHPに掲載することで、家庭へのさらなる啓発を図れるとよい。
				B	38	50%			
				C	7	9%			
				D	0	0%			
			【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	無	0	0%			
人権教育・生徒支援	学校から情報を発信したり、児童生徒の支援策を保護者と考えたりするなど、家庭と連携して支援・指導を行う。	保護者（高等部）	人とのかかわり方やインターネットの使い方について、お便りで情報を得たり、担任と共に家庭での支援を考えたりすることができたか。	A	25	33%	達成	インターネットに関する情報のチラシを家庭に配布したり、家庭でのルールを親子で考えてもらう機会を作ったりした。また、異性との交流について学部便りで注意喚起を行った。学部全体で意識を持って指導にあたった成果と考える。	今後も引き続き、有効な情報を教員へ提供し活用してもらったり、人とのかかわり方やインターネットの使い方を家庭で振り返り考えてもらう機会を設けたりしていく。有効な情報や取組を定期的に学部便りやHPに掲載することで、家庭へのさらなる啓発を図れるとよい。
				B	43	57%			
				C	5	7%			
				D	2	3%			
			【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	無	1	1%			
進路支援	希望調査や説明会、相談会といった進路関連行事のほか、生活や学習活動など、学校生活のあらゆる場面において、児童生徒の卒業後の生活を意識した支援を行う。	保護者	進路希望調査や説明会、相談会などを通して、進路選択に必要な情報を入手することができたか。	A	61	40%	達成	昨年と同様に様々な機会を通じて、児童生徒の進路実現に関する情報を提供することができた。小学部や中学部において、一部の保護者には情報提供が十分にはできなかったと言える。	進路希望調査の結果や保護者懇談会の内容について、担任教諭と連携して情報共有を図る。また進路ガイドブックの内容を刷新し、よりわかりやすく情報提供を行う。保護者の抱く希望や不安を把握し、適切に情報を提供する。
				B	72	47%			
				C	19	12%			
				D	0	0%			
			【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	無	1	1%			
保健・安全	家庭に向けた発信を行い、家庭からのニーズを把握する。	保護者	学校の性に関する指導についての取組を通信や学部だより、連絡帳などを通して知ることで、子どもの性について家庭で考えるきっかけになったか。	A	106	69%	未達成	性教育について通信や連絡帳を通して学校での取組や子どもの様子が分かったと回答する家庭が7割弱ある一方で、学校での取組について知らないと回答する家庭も一定数あった。	実施する性教育の指導内容を教員が共通理解し、まずは連絡帳等で家庭に伝えていく。その他、今年度同様に学部だよりやこころ＊からだ通信でも発信する。
				B	34	22%			
				C	12	8%			
			【目標指数】A＋Bの合計が70%以上	無	1	1%			
ICTの活用	児童生徒の学びを充実させ生活を豊かに送ることができるようなICTの活用方法について検討する。	保護者	おたよりや連絡帳、授業公開などを通して、学校でiPad等の情報機器がどのように使われているかを知ることができたか。	A	53	35%	達成	保護者向けにICT通信を3回発行した。校内の取組やICT利用に関する情報を掲載した。通信のアンケートで「参考になった。」と回答した方もいるが、反応はあまり多くない。	来年度もICT通信を発行して学校の取組を発信していく。また、通信を学校HPにも掲載し、情報が保護者の目に届きやすいようにしていきたい。
				B	73	48%			
				C	23	15%			
				D	2	1%			
			【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	無	1	1%			

※パーセンテージは小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。

回答者	観　点	判定基準		
保護者	PTA活動に参加できたか。 （例） ・PTA新聞を見た。 ・PTA総会資料の決議書を提出した。 ・各種事業案内を見たり、参加したりした。 （制服等リサイクル、保護者学習会、親子の日など） ・ベルマーク活動に協力した。	A	37	24%
		B	81	53%
		C	23	15%
		D	11	7%
		無	0	0%

「D全く参加できなかった」の理由
日程的なこと　3
内容的なこと　0
関心がない　0
家庭の都合　5
その他　3

令和5年度　学校評価総合シート　保護者②



④性教育Cの理由・性についてまだ本人と話していない（２）
・学校と家庭、双方の性に対する情報が一致できていないため今は分からない
・性教育をしているのかが不明

令和5年度　学校評価総合シート　教職員①

教育課程・学習支援	学習指導要領の指導内容を確認し、その内容に基づいた指導計画を作成し、児童生徒が自分から学ぼうとしている姿勢を意識した評価をする。	小中高教員	学習指導要領の指導内容に基づいた指導計画を作成し、主体性を意識した評価をすることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	36 52 0 0 0	41% 59% 0% 0% 0%	達成	評価に関係する教員が学習指導要領を読み込む姿が日常化し、3つの観点の中でも特に主体性を意識することで、指導計画を作成し、主体性を意識した評価を行うことを全ての職員が達成する成果につながったと考えられる。	児童生徒の学習への主体性は、自立に向けて大切な意識であること、また、保護者の評価にはCもあったので、引き続き主体性を意識した評価を行うと共に、学習指導要領の指導内容に基づき、児童生徒の主体性を引き出す支援をしていきたい。
人権教育・生徒支援	（異性とのかかわりを含む）人とのかかわり方やインターネットの使い方についての支援・指導を行い、いじめやトラブル防止に努める。	小中教員	人とのかかわり方やインターネット利用時の約束について積極的に支援・指導を行うことができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	16 30 2 0 0	33% 63% 4% 0% 0%	達成	インターネットに関する情報を全教員に周知・家庭に配布したり、小学部では共通教材を作成して授業で活用してもらったり、中学部ではメッセージで教員に呼びかけを行ったりした。ほとんどの教員が積極的に支援・指導を行うことができた。	今後も引き続き、有効な情報や教材を教員へ提供していく。中学部でも、メッセージだけでなく、共通の教材を作成・使用してもらう、インターネットに関する情報のチラシを有効活用してもらうなどできるとよい。
		高等部教員	人とのかかわり方やインターネットの使い方について積極的に支援・指導を行うことができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	19 21 0 0 0	48% 53% 0% 0% 0%	達成	長期休業前後の生活指導や生単の授業で取り上げて指導するだけでなく、日々の生活の中でも学部全体で意識高く指導にあたっている。インターネットに関する情報を全教員に周知・家庭に配布したり、生活チェック表を活用してもらったりしたことも有効だったと考える。	今後も引き続き、有効な情報や教材を提供したり生活チェックを定期的に実施したりして、指導に生かせるとよい。トラブル等あったときには学部に周知し、クラスで話題にしていただくなど呼びかけを行う。
	学校から情報を発信したり、児童生徒の支援策を保護者と考えたりするなど、家庭と連携して支援・指導を行う。	小中高教員	人とのかかわり方やインターネットの使い方について連絡帳や懇談会で保護者と話し合い、支援・指導を行うことができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	23 56 9 0 0	26% 64% 10% 0% 0%	達成	多くの教員が人とのかかわり方やインターネットの使い方について積極的に支援・指導を行う中、懇談前にはメッセージで教員に呼びかけを行ったこともあり、成果につながったと考える。今後も家庭への啓発や連携の必要性を伝えていく必要がある。	今後も引き続き、有効な情報や教材を教員へ提供し活用してもらうことで、教員の意識を高めていけるとよい。また、家庭への啓発や連携した支援が必要であること、懇談で話題にしてもらうことを、懇談前に学部会やメッセージ等で呼びかけていく。
進路支援	希望調査や説明会、相談会といった進路関連行事のほか、生活や学習活動など、学校生活のあらゆる場面において、児童生徒の卒業後の生活を意識した支援を行う。	小中高教員	授業や学校行事などの様々な場面において、児童生徒に対して進路実現を意識した支援を行うことができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	33 50 5 0 0	38% 57% 6% 0% 0%	達成	進路実現を意識した支援の実践は、今年もほぼ全ての教員が行ったと言える。しかし、昨年比では判定基準Aの数値が減少し、代わりにBの数値が上昇した。またCの数値もわずかに上昇した。	小中高、各学部間における進路支援について、問題点や課題、必要な情報の共有を促進する。特に進路支援部長と各学部主任間での情報共有を密にして、より良い連携を図る。
	高等部での産業現場等における実習が、進路選択の参考となるように充実させる。	高等部教員	産業現場等における実習を生徒の進路選択につなげることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	20 20 0 0 0	50% 50% 0% 0% 0%	達成	前年同様に実習の準備や振り返りを行うなかで、教員間の連携を深めることができた。しかし昨年比では判定基準Aの数値が減少し、代わりにBの数値が上昇した。	テクノパーク実習を廃止して、1年生B課程生徒の事業所実習を行う。それによって進路実現に向けた意識の醸成を、教員においても、より早期から図る。

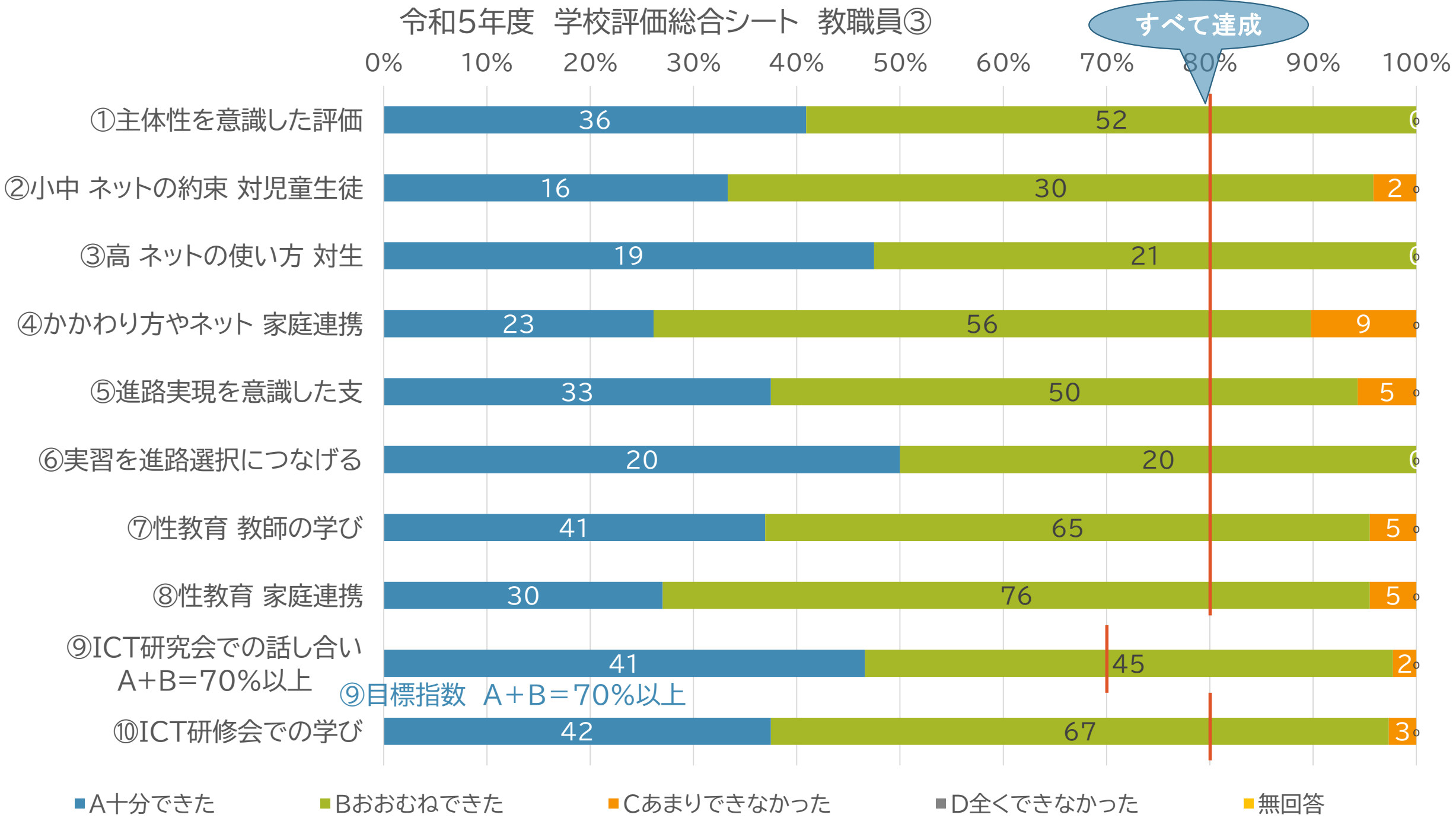
※パーセンテージは小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。

令和5年度　学校評価総合シート　教職員②

保健・安全	社会の状況を踏まえながら教職員一人一人がセクシュアリティ教育について理解を深め、学部舎で児童生徒に応じた指導や支援を行う。	小中高教員・養・舎	セクシュアリティ教育について夏季休業中の学習会に参加し理解を深めたり資料等から学んだりすることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	41 65 5 0 0	37% 59% 5% 0% 0%	達成	夏季休業中に全体研修とグループ研修を行い、包括的セクシュアリティについて見識を広め、少人数で話し合うことで他者の考えを知り多面的に捉えるきっかけになった。前年度に比べ目標指数が8%伸びた。	次年度も教職員を対象にした研修の機会を設け、性について教職員で話し合える環境を継続させ、学校全体でセクシュアリティ教育に取り組む。
	家庭に向けた発信を行い、家庭からのニーズを把握する。	小中高教員・養・舎	こころ＊からだ通信や学部だより、連絡帳のやりとりなどを通して家庭が求めている情報を把握し、支援方法を検討することができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	30 76 5 0 0	27% 68% 5% 0% 0%	達成	性教育の取組について通信や連絡帳を活用することで保護者からの相談や感想などが寄せられ児童生徒への支援に生かすことができた。一方で指導内容について教職員の共通理解が足りなかったことで、学校での指導内容を家庭にうまく伝えられていないという反省があった。	各教科の年間計画に位置付ける際に、できる範囲で指導内容や実施時期を明記し共通理解を図れるように、教科をまたいで性教育に関する年間計画を整理する。
ＩＣＴの活用	児童生徒の学びを充実させ生活を豊かに送ることができるようなICTの活用方法について検討する。	小中高教員	児童生徒の学びに有効なICTの機能や実践について、学部研究会等で話し合うことができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	41 45 2 0 0	47% 51% 2% 0% 0%	達成	学部研究会等を通して、ほとんどの教員がICT利用に関する情報共有や使い方の検討を行うことができた。教員相互参観週間の授業一覧を改善することで、他クラス・他学部のICT活用場面を見る機会にもつながった。	アンケートの中に「一人一人の発達段階を把握した活用があまりできていないと感じた」との意見があった。来年度は学部ごとにグループを作り、グループごとにテーマを決めて研究を行う。児童生徒の発達に合わせたICTの活用方法を探れるよう、研究を進めていきたい。
	ICTを活用できるよう、教職員の資質能力の向上を図る。	小中高教員・栄・舎	ICT機器の活用について研修会に参加したり、資料等から学んだりすることができたか。 【目標指数】Aが70%以上	A B C D 無	42 67 3 0 0	38% 60% 3% 0% 0%	達成	2回の研修会を実施し、各学部に適した内容の研修を行うことができた。来年度は教員に対して一人一台の体制が構築できなくなりハード面の絶対数の確保が課題になる。	学校教育DXの推進を図る上で、学校内の研修にとどまらず教育研究所が開催する研修等を利用して個人のレベルアップが必要である。

※パーセンテージは小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。

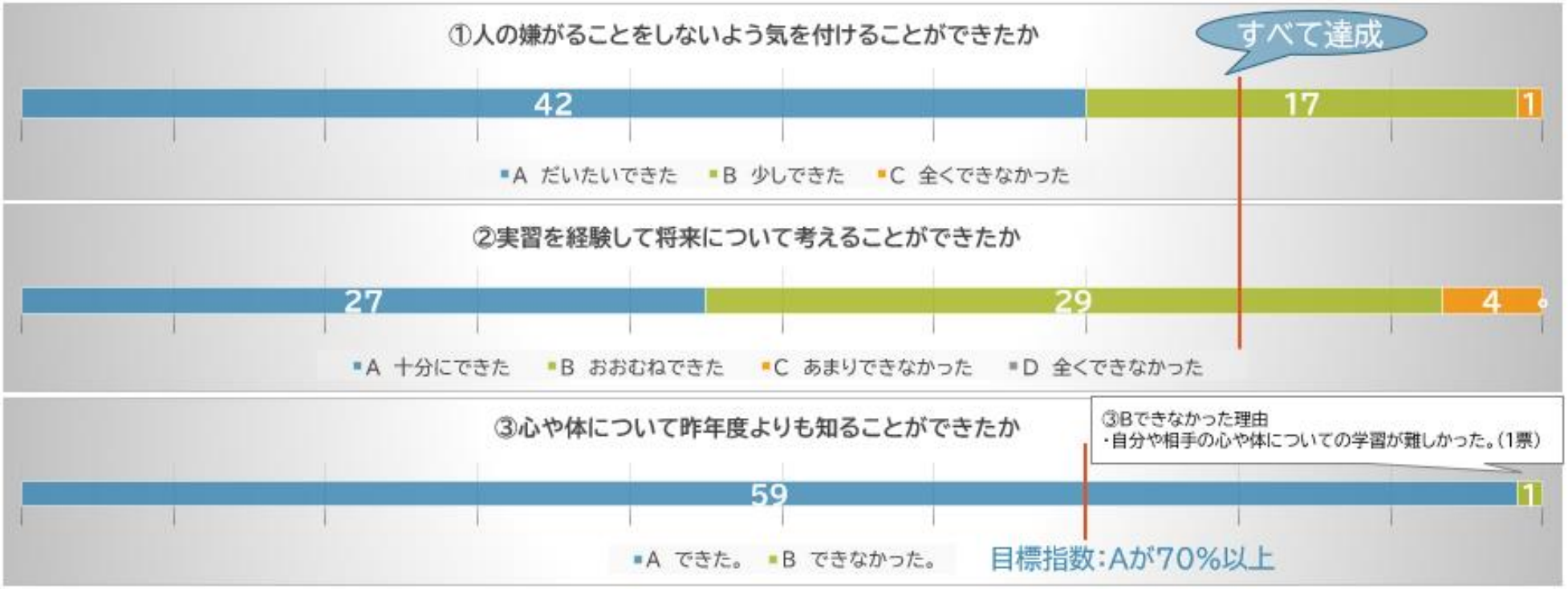
令和5年度　学校評価総合シート　教職員③

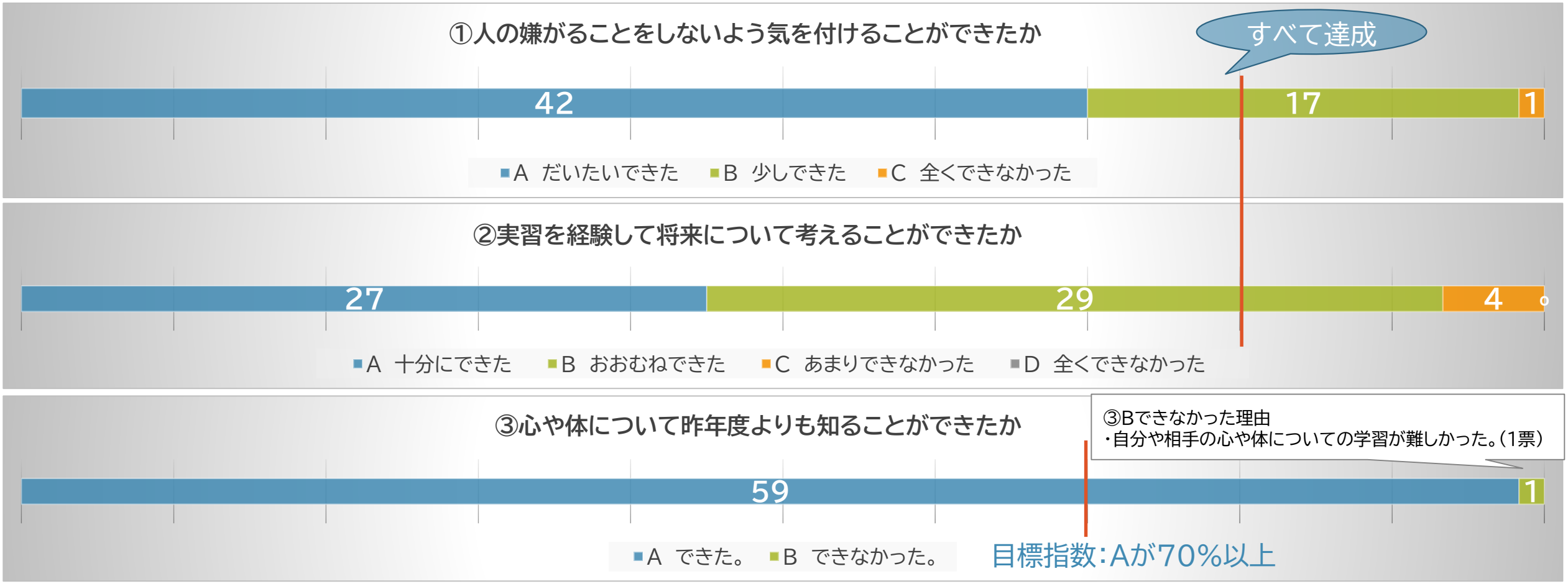


令和5年度　学校評価総合シート　生徒

人権教育・生徒支援	(異性とのかかわりを含む)人とのかかわり方やインターネットの使い方についての支援・指導を行い、いじめやトラブル防止に努める。	高等部 A・B・(D) 課程生徒	人のいやがることを言ったりしたりしないように気を付けることができたか。(LINEなどのSNSも含む) 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C 無	42 17 1 0	70% 28% 2% 0%	達成	指導部による生活指導の他、学部全体で意識を持って指導にあたっており、生徒達にも意識付けができたと考える。さらに意識を持たせ、行動の改善につなげていきたい。	今後も引き続き、生活指導の際に「人を傷つける行動」について具体的に示しながら指導をしていく。全教員が「人を傷つける言動を許さない」意識を持ち、指導にあたれるとよい。
進路支援	高等部での産業現場等における実習が、進路選択の参考となるように充実させる。	高等部 A・B・(D) 課程生徒	産業現場等における実習を経験して、将来について考えることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C 無	27 29 4 0	45% 48% 7% 0%	達成	産業現場等における実習を経験することによって、高等部生徒に進路選択について考える機会を設けることができた。ただし昨年比で判定基準Cの値がわずかに上昇した。	テクノパーク実習を廃止して、1年生B課程生徒の事業所実習を行う。また職場見学の開催時期を早める。それらによって進路実現に向けた意識の醸成を合理的に図る。
保健・安全	社会の状況を踏まえながら教職員一人一人がセクシュアリティ教育について理解を深め、学部舎で児童生徒に応じた指導や支援を行う。	高等部 A・B・(D) 課程生徒	自分や相手の心や体について昨年度よりも知ることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が70%以上	A B 無	59 1 0	98% 2% 0%	達成	「昨年度よりも知ることができた」と回答した高等部生徒がR4年度と比べ29%増加した。生徒に応じた性教育の取組に対する成果が現れた。一方で一部の生徒から性教育に戸惑いを感じているという声があった。	個人のプライバシーや人権に大きくかかわる内容を慎重に扱う。生徒が性教育の授業を受けるかどうかの意思を尊重したり、可能な範囲で個別にフォローしたりする。

※パーセンテージは小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。





R5 学校評価アンケート結果(生徒)Excelデータ